

2021年3月、名古屋入管の収容施設でスリランカ人女性ウィシュマ・サンダマリさん（33）が亡くなりました。閉鎖的で悪環境の施設で半年以上を過ごし、スリランカに帰れない事情があったのに入管職員に「帰れ」と言われ、心身ともに疲弊していた彼女の、その生命が危うい段階になってなお、入管は病院での適切な治療の施しを拒否し続けました。この事件以前にも、入管では「外国人」の人権軽視・侵害が繰り返されており、過去25年間に施設で亡くなった人は少なくとも21名に上ります。

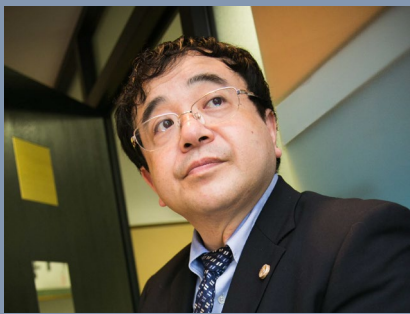
同年5月、入管での長期収容に国内外で批判が高まるなか、入管法「改正」案が国会に提出されました。難民認定率が1%未満の日本においては、もといた国に帰れないなど日本に留まる事情がある人々に対しても在留資格が与えられていない、そこに収容問題の根源があります。しかし、同法案が浮かび上がったのは、事態の改善を図るところか、帰れない事情のある人々を強制的に帰国させることによって長期収容をなくし、「望ましくない外国人」の排除をより一層促進しようとするこの国の排外主義的な態度でした。

シリーズ《共生の未来》第1弾では在日クルド人、第2弾ではトルコのクルド人をテーマに、人間と祖国／ホームランドの関係を考えてきました。第3弾の今回は、長年入管による人権侵害と闘ってこられ、現在はウィシュマさんご遺族の代理人弁護士も務める指宿昭一弁護士をお招きし、ウィシュマさん死亡事件と入管法から、日本における外国人排除問題の現状とその歴史について、ご講演いただきます。

講演会を通して日本社会の在り方を見つめ直し、共に生きられる社会に向けてのこれからの、ぜひみなさんと一緒に考えたいと思います。

指宿弁護士京大講演会実行委員会代表 西道奎

Lecturer



指宿昭一 | Shoichi IBUSUKI

弁護士。入管の民族差別・人権侵害と闘う全国市民連合代表、入管を変える！弁護士ネットワーク共同代表、外国人技能実習生問題弁護士連絡会共同代表、外国人労働者弁護団代表、日本労働弁護団常任幹事。1985年筑波大学比較文化学類卒業、2007年弁護士登録。労働事件（労働者側）・入管事件を専門とし、人権問題に長年取り組む。著書として「使い捨て外国人～人権なき移民国家、日本～」(2020年・朝陽会)。

駒込武 | Takeshi KOMAGOME

京都大学大学院教育学研究科教授、専門は植民地教育史、台湾近現代史。単著に『世界史のなかの台湾植民地支配——台南長老教中学校からの視座』、編著に『生活綴方で編む「戦後史」——〈冷戦〉と〈越境〉の1950年代』ほか。

岡真理 | Mari OKA

京都大学大学院人間・環境学研究科教授、専門は現代アラブ文学、パレスチナ問題。著書に『彼女の「正しい」名前とは何か』、『棗椰子の木陰で』、『アラブ、祈りとしての文学』、『ガザに地下鉄が走る日』ほか。

Program

- 18:45 開演 主催者挨拶 学生による問題解説
- 19:00 指宿昭一弁護士 ご講演
- 20:00 パネル・ディスカッション
指宿昭一 × 駒込武 × 岡真理
質疑応答
- 21:00 終了予定

< 参加申込み >

QRコードもしくはURL (<https://forms.gle/oA6JBgCCobP978ox8>)よりお申込みください。

会場は当日の飛び入り

参加も歓迎です！



共催：科研基盤研究(A)「トランスナショナル時代の人間と「祖国」の関係性をめぐる人文学的、領域横断的研究」
指宿弁護士京大講演会実行委員会

協力：TRY（外国人労働者・難民と共に歩む会）／入管の民族差別・人権侵害と闘う全国市民連合